

延命寺報 慈光



『33年ぶりの薬師瑠璃光如来ご開帳』
天気にも恵まれ、遠方からも多くの方がお参りに来られました

令和元年 11月
第13号

住職の一言

阿部雄峰

本年も残すところわずかとなりました。

この一年を振り返ってみると、止まることなく常に動

き続けていた一年でした。十二月に本堂須弥壇の修繕、一月は釈迦牟尼佛像を安置して修正会、二月は阿弥陀来迎図を本堂に祀り地蔵供養、大般若祈禱会、三月は彼岸供養会、四月は釈尊降誕会、永代供養会、七月永代納骨堂完成、八月は慈峰得度式、盆行事、十一月は薬師如来ご開帳がありました。

中でも一番の大事事は、三十三年ぶりの薬師如来ご開帳でした。十月二十日の中日新聞尾張版にご開帳の記事が掲載されると、その日から当日までひっきりなしに多くの参拝客が訪れ賑わいました。当寺の薬師如来様のお力のすごさを実感すると同時に、今までリフォームや修繕、庭の手入れ等を重ねてなんとか人に来ていただけただけのお寺になったのだと感慨深いものがありました。

無事にご開帳することができたのは、随喜の御寺院様をはじめ、檀信徒の皆さん、ボランティアスタッフの皆さんのお力添えのおかげです。感謝申し上げます。

このご開帳を起縁として、お参りに来てくださる方や、御朱印を求められる方、坐禅会や写経、お地藏様作りに参加してくださる方もあります。とてもよいご縁をいただき有難く思います。来年は今年の経験を活かして、より多くの人のためになる開かれた延命寺を目指して精進していく所存です。今年同様にあたたかく見守っていただけると幸いです。

ブツダの言葉から学ぶ

我々はここ死の領域に近い。

そのことを人々はわかっていない

我々は死すべきものだと思っていない。

このことわりを知る人があれば、争いは鎮まる。 『法句経』

私たちはこの世界において、死と隣り合わせで生きている。いつ死んでもおかしくなれない。このことに気付かない人が多い。しかし、この現実を理として受けとめ自覚したならば、もはや争いはなくなるだろう、といわれています。

この世で確かなものは、「自分が死ぬ」ということ。しかもいつ死ぬのかわかりません。赤ちゃんだから、子どもだから、健康だから死なないということはありません。今日、笑っていても明日どうなるのか、誰にもわかりません。私たちは死と隣り合わせに生きているのです。

今年には台風による災害がありました。多くの命が突然失われたわけですが、死と隣り合わせであることをまざまざと私たちに思い知らせた出来事でした。

誰もが、人は生まれたら必ず死ぬことを知っています、自分自身が死ぬ身であることを深く考えません。「どうせ死ぬんだから」「私が死んだらね」などとく口にしますが、遠い国のおとぎ話のように、他人事のように考えがちで、自分だけは死なないような感じがしているのが実情です。

お釈迦様はそのようであるから、怒り、争うのだと考えます。今日、明日、死ぬかも知れない存在だということを受けとめていないから、くよくよ悩み、目の前の損得で腹を立て、争い苦しむのです。その道理をしっかりと肝に据えていけば、どれだけ無意味なことをしているかわかります。

お釈迦様は怒りの心が生じた時、明日をも知れぬ命と思いたくないと教えるのです。死を自覚するというと、暗く、マイナスなイメージをもたれるかもしれませんが、そうではないのです。死を自覚すれば、そのときその時を懸命に、誰に恥じることなく、できれば人の役に立ってというように自ずと自分を正すことができるので、プラスの生き方となるのです。

心穏やかに過ごして良き年を迎えましょう。

長男得度式

八月一日の盆施食会の前に、長男慈峰の得度式を行いました。当日は三十七度という猛暑になり、きちんと練習通りできるか不安もありましたが、最後まで勤め上げてくれました。ご参列くださった皆様、お祝いの言葉をかけてくださった皆様、誠にありがとうございました。

長男は得度してからは毎朝の勤行に加え、坐禅も始めました。まだまだ僧侶としては未熟者ですが、少しずつ精進してまいりますので今後ともよろしくお願いたします。



お札配布します

一月一日0時より、本堂にて新年の法要を行います。その際に祈禱したお札を一月中にお参りくださった皆様に配布いたします。「立春大吉」は玄関に、「鎮防火燭」は台所に貼ってください。

お正月特別御朱印

一月一日〜六日までの六日間、通常の御朱印に加え、お正月の特別御朱印をご用意いたします。延命地藏、薬師如来、千手観音の三種類あります。集印されている方はよろしければお立ち寄りください。



寄付付きのぼり奉納承ります

甚大な被害をもたらした台風十九号が去ってから一ヶ月が経ちましたが、被害に遭われた方々の生活は未だに混乱が続いています。

そこで今回ご開帳した薬師如来ののぼりを新たに作り、冥加料の一部を台風被災地に寄付させていただくことにしました。

のぼり奉納者はお正月にご祈禱させていただき、薬師堂前にのぼりを約一年間(のぼりの寿命まで)奉納いたします。

《のぼり冥加料 五千円》

※ポール代・ポールスタンド代含む。五千円のうち千円を寄付いたします。



チャリティ映画鑑賞会

日々の暮らしからちよっと離れ、皆で学んで泣いて笑えるような時間をという思いから、月一回の映画鑑賞会を始めることになりました。

第一回・二回はアニメ『手塚治虫のブツダ』を上映します。吉永小百合さんや堺雅人さんなどが声優をつとめておられ、子どもも大人も楽しめる映画です。

鑑賞料はお気持ちを募金箱に入れていただき、集まった寄付金はすべてボランティア団体に寄付します。

ぜひお誘い合わせの上お越しください。



開催日：毎月第二土曜日十四時〜

第一回 一月十一日(土)十四時〜

第二回 二月八日(土)十四時〜

精進ごはんレシピ



永平寺では寒さが厳しくなると、のっぺい汁をよく作ります。体も心もあたたまります。

材料 (4人分)

里芋…200g 人参…40g ごぼう…40g こんにゃく、厚揚げ…各 1/2 枚 白菜 200g
チンゲン菜…2株 干し椎茸…4枚 昆布だし…6カップ しょうがの絞り汁…大さじ 2 片栗粉…小さじ 2
ごま油…適宜 塩・酒・みりん・醤油

作り方

- ①里芋は皮をむいて乱切りに、人参ごぼうも乱切り、こんにゃくは 2 cm はばに切って薄切り、厚揚げは 2 cm 角に切り、白菜は 3 cm 幅に切る。チンゲン菜は 3 cm 大に切ってかために塩ゆで、干し椎茸はもどして軸を落として薄切りにし、軸は石づきを除いて縦に千切りする。
- ②鍋にごま油を熱し、用意したチンゲン菜以外の具を 2～3 分炒める。油がからんで外側が透明になったら、昆布だし、酒 1/3 カップ、みりん大さじ 2 を加えて柔らかくなるまで煮込み、醤油大さじ 2～3、塩少々を加えてさらに煮る。
- ③味が決まったらしょうがの絞り汁を加え、水で溶いた片栗粉を加えてとろみをつけ、最後にチンゲン菜の葉を加える。

◆除夜の鐘

十二月三十一日(火) 午後十一時三十分～
参加無料。お汁粉あり。祈祷後お札配布。

◆健康祈願こども卓球大会

一月四日(土) 午後一時～
子どもたちの健康祈願のご祈祷を行い、その後卓球や七福神探しなどをします。小学生対象。景品あり。

※定員 十六名 (参加費二百円)

お申し込みはお寺までご連絡ください。

◆寺子屋講座「心が晴れる法話と写経」

(開講日) 毎月第三土曜日

午後一時～午後三時半

(受講料) 初回千五百円、二回目以降千円
お経についての法話、簡単なイス坐禅、写経。

◆お地藏さま作りの会 メンバー募集

(活動日) 毎月第四土曜日

午後一時～午後三時頃

編集後記

薬師ご開帳記念に特別御朱印を用意したところ、東京や大阪、北九州など県外からも多くの人が参拝にこられました。御朱印帳を見てみると、全国寺社の素敵な御朱印があり、大変勉強になりました。今後も行事ごとに新しい御朱印を考案していきたいと思えます。

お知らせ・募集

青林山 延命寺

☎ : 490-1115 愛知県あま市坂牧郷 30

☎ : 052-444-0109

※月参り・命日のお参りなど随時受け付けております。

<http://www.seirinzan.com> 検索は青林山延命寺